

蔵出しお宝ニュース

— 第 40 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

第3回 私たちのやっさ踊り展 開催

平成26年7月25日（金）から8月10日（日）まで、三原駅前のペアシティ三原西館2階・市民ギャラリー ギャラリー1で「第3回 私たちのやっさ踊り展」を開催いたします。この度は例年のやっさ踊りの歴史を紹介するコーナーや衣装、三原やっさ祭り歴代ポスターの他に、三原で活躍された型染作家の内田皓夫がデザインしたやっさグッズや、新たにご提供いただいたやっさ踊りの古写真などを展示いたします。

また、7月27日（日）には午後2時よりギャラリー1の前にあります多目的ホールにて「やっさ踊り唄発表会」を開催いたします。昨年は小・中学生を参加対象としましたが、今年は何なたでもご参加いただけます。三原やっさ踊り振興協議会の先生方による地方の生演奏に合わせて唄っていただきます。申込用紙は観光課に備え付けております。7月18日（金）までに観光課へお申し込みください。唄自慢のみなさん、奮ってご参加ください！



唄発表会のアトラクションとして午後3時より、三原やっさ踊り振興協議会による昔風やっさ踊りの特別披露、昭和11（1933）年に三原町から三原市になったことを記念して製作された伝説のご当地ソング『三原おとめ』を数十年の時を経て演奏していただきます。どうぞお楽しみに！

（写真）

三原やっさ踊り振興協議会の皆様によるやっさ踊り

資料館マメ知識 「内田 皓夫」とは？

三原市内を歩いていると、やっさ踊りがデザインされたマンホールの蓋を見かけます。このデザインを手がけたのが型染作家の内田皓夫〔大正9（1920）年～平成12（2000）年〕です。内田は三原市を拠点として活躍しました。日本大学芸術学部を卒業後、民芸運動の創始者・柳宗悦やなぎむねよしが発刊する雑誌『工藝』の編集に携わり、その縁から染色工芸家で人間国宝せりざわけいすけの芹沢銈介の知遇を得て、型染の創作に生涯を捧げました。



マンホールの蓋

広島・岡山・福山・三原で個展を開くとともに、本の装丁や挿絵、生活に密着した浴衣や帯、タオルやテーブルセンター、包装紙、マッチ、カレンダーなどを制作し、地域を越えて多くのファンに愛されました。

その中で、やっさ踊りを題材にした作品もたくさんあります。やっさ踊りに関連した菓子の包装紙や三原やっさ祭り協賛の絵葉書などが馴染み深いです。

第3回私たちのやっさ踊り展の会場で、内田皓夫とやっさ作品について紹介させていただきたいと思います。

おき どん しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 綿谷 行四郎 筆 桃の画

綿谷行四郎〔明治33（1900）年～昭和52（1977）年〕は昭和期に活躍した広島県出身の日本画家です。30歳頃から絵を学び、昭和16（1941）年に院展初入選。広島県美術展の審査員などを務めました。

花入 行器
花 季のもの



三原やっさ祭り協賛の絵葉書として使われた内田作品の原画（個人蔵）

発行 平成26（2014）年 7月11日
〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。